上尾丸山公園の水辺再生の取組をつたえる

かいぼり瓦版

8号
2022年9月

発行
上尾市役所みどり公園課
https://www.city.ageo.lg.jp/soshiki/s355000/
編集
認定 NPO 法人 生態工房
https://www.eco-works.gr.jp

この印刷物には再生紙を使用しています

涼しげな青紫の群生

凛と咲くミズアオイ

上尾丸山公園の湿地に、ミズアオイの青紫色の花が咲く季節がきた。埼玉県内でも自生地が少ない本種がなぜこの湿地で見られるようになったのか、ミズアオイ再生のストーリーを辿る。

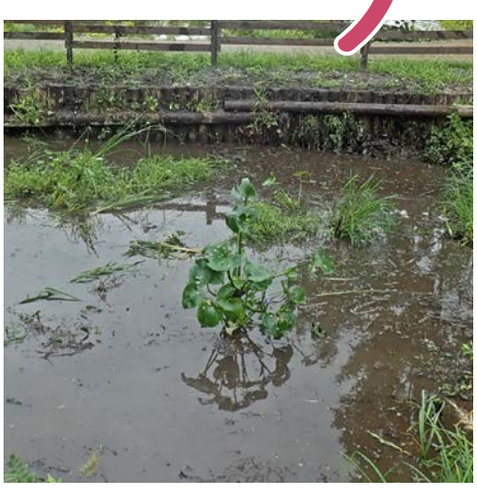
ミズアオイ再生物語

上尾丸山公園にミズアオイが生育するようになったことには、かいぼりから始まった自然再生の取組の積み重ねがある。

上尾丸山公園では2019年に大池でかいぼりを行い、懸案だった水質悪化と外来魚問題を改善した。このときに公募したボランティア「上尾水辺守」を中心とする活動が現在も続いている。

2020年には、大池周辺の湿地環境を再生していく目的で外来植物キショウブの駆除を開始。そのひとつ、北駐車場そばの湿地では、一面を覆っていたキショウブを抜き取り、その後に伸びてきた芽も抜き取った。湿地への日当たりを阻害していたアカメガシワなどの実生木は公園管理事務所が取り除いた。

こうして日当たりのよい、泥が露出した環境ができたところ、2021年に3株のミズアオイが出現したのだ。花が咲き、種子をたくさん実らせた。



同湿地の昨年の様子。たった3株だった。

絶滅危惧種になった水田雑草

河川や池沼、水田などに生育するミズアオイは、かつては水田雑草として普通に見ることができた。しかし、河川改修等による生育環境の消失や水辺植生の過繁茂、除草剤の影響などによって減少。環境省レッドリストでは準絶滅危惧に選定されている。埼玉県内での生育状況は非常に危機的で、継続的に自生が確認されているのは上尾丸山公園のほか1ヶ所しか知られていない。県レッドリストでは、危険度が最も高い絶滅危惧ⅠA類になっている。

復活のヒミツ、埋土種子

こうした絶滅危惧種のミズアオイが突然、湿地に生えてきてニュースになることがある。そのヒミツは埋土種子だ。

埋土種子は、翌年にすぐ発芽する種子と異なり、長く休眠期するのが特徴だ。その期間は数十年におよぶものもある。ミズアオイのような水辺の植物には、埋土種子をつくる種類が多くいる。（裏面へ）

一面を覆っていたキショウブを駆除（2020年）

洪水などによる環境変化が激しい水辺では、種子が地中深く埋まってしまったり、渇水や水没によって生育に適さなくなったりすることがある。そうしたとき、生育条件が好転するまで種子の状態のまま発芽の機会を待つのだ。上尾丸山公園に出現したミズアオイも、かつて水田だった時代の埋土種子に由来するものだと考えられる。

生育に必要な「撹乱」とは？

ミズアオイが湿地に突然現れた事例を詳しく見てみると、放棄水田や湿地を耕したり洪水が起こったりして泥が露出したという共通項がある。このように、植生に覆われていた場所が人の手や自然の営みによって裸地に戻される働きを「撹乱」という。植生のない泥地に生育するミズアオイが生きていく上で、撹乱は欠かすことのできない働きなのだ。

ミズアオイの保全に向けて

２０２２年、上尾丸山公園のミズアオイは前年の３株から６０株以上になった。かいぼりをきっかけにした自然再生活動が大きく実を結んでいる。

しかし、自生地はまだ小さく、心もとない状況だ。今の自生地を保全しながら、ミズアオイが生育できる湿地環境をさらに再生していきたい。

外来草本や、草丈の高いイネ科草本を抜き取る作業

めざせ！大池再生

みずべもり通信

- 新メンバー、受講中！ -

上尾丸山公園の自然再生に取り組むボランティア「上尾水辺守」。２０１９年に大池のかいぼりに向けて結成し、その後もモニタリングやアメリカザリガニ防除などに取り組んできた。今回、水辺の自然再生や来園者参加型の活動をさらに充実させていくために、メンバーの追加募集を初めて行った。

６月に追加メンバーを募集したところ、中学生から社会人までの老若男女が集まった。うれしいことに、これまでの水辺守の活動を知っている人もいた。

応募者は全５回の講習を受けてボランティアに登録する。今は講習の真っ最中だ。座学では、これまでの上尾丸山公園での取組の概要や成果、外来種問題、公園における自然再生活動など、活動に必要な知識を一通り学ぶ。野外実習もある。

秋には新メンバーとして、水辺をよりよくしていく活動に加わる予定だ。

１回目の講習では水辺守の活動を見学した

座学で活動に必要な知識を学ぶ

注目のトピックス

今年もみんなでアメリカザリガニ防除！

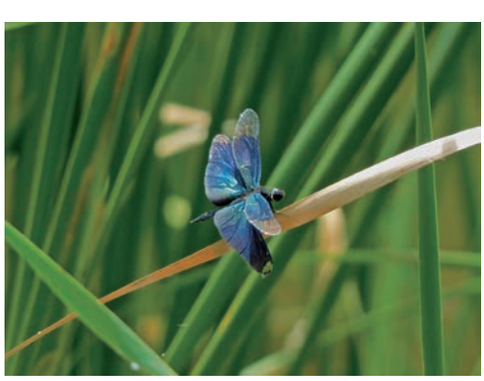
アメリカザリガニは水草や水生昆虫に大きな被害をもたらすことから、外来生物法による規制が検討されている外来種です。大池ではかいぼりによって外来魚がいなくなりましたが、干し上げても乾燥に耐えるアメリカザリガニは現在もたくさん生息しています。上尾丸山公園では、水辺の生物多様性を保全・再生する目的で、来園者と一緒にアメリカザリガニの駆除に取り組んでいます。

その一環として行っている作業イベント「みんなで水辺守～アメリカザリガニ駆除編～」は３年目を迎えました。今年もたくさんの来園者が協力しています。熱心な参加者も多く、何度も参加する人もいます。「アメリカザリガニは水辺環境に良くないと知ったので駆除に協力できてよかった」「大池の環境がもっとよくなったらいい」という感想をいただいています。

イベントのない日でも、上尾市自然学習館では園内で捕れたアメリカザリガニを回収しています。みんなの力で生きものが豊かな水辺環境をつくっていきましょう！

ザリガニ計数のお手伝い中！

旬の一枚

チョウトンボ（蝶蜻蛉）

蝶のようにヒラヒラと飛ぶことからその名がついたトンボ。ガマやマコモなどの抽水植物が豊富な水辺に生息します。かいぼり後に抽水植物の茂みが拡がり、生息数が増えてきました。2022年７月には大池で10頭ほどが確認されています。